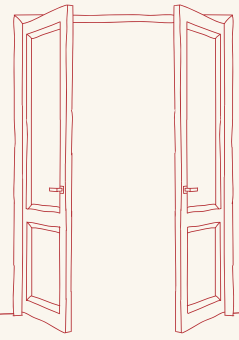


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.31



コンビニの店舗スタッフとして、 62歳の新スタート

元IT技術者

小林 寛さん (62歳)

2010年早期退職



【こばやし・ひろし】1956年、東京都練馬区出身。大学院を卒業後、大手自動車メーカーに入社。研究部門でエンジンオイル等有機材料の分析・開発に携わった後、IT部門に異動し、自動車開発に必要なITシステムの開発・運用を担ってきた。その後、関連IT企業への転籍、別会社による吸収合併を経て、54歳の時、早期退職。退職後は派遣会社に登録し、グローバル企業でのITサポート経験を活かしつつ、IT関連業務をサポートしてきた。

—小林さんは、今年4月からコンビニエンスストア「セブン・イレブン」の加盟店で、店舗スタッフとして働かれているようですが、それまではどんな仕事をされてきたのですか。

私は大学院を卒業後、大手自動車メーカーに入社しました。専攻が高分子工学だったことから、研究職として自動車のエンジンオイルや塗装など有機材料の分析に携わった後、IT部門でシステム開発を担当しました。それ以降、IT畑を歩んできました。

—ずっと同じ会社に勤められたのですか。

いいえ。というのも、私が配属されていたIT部門の業務が関連IT企業（米国企業）に業務委託されることになり、それに伴い私も転籍となりました。そして後々ですが、その企業が別の外資系IT企業に吸収合併されたのです。その後、会社が早期退職プログラム（退職金の増額を含む）を履行していた時期があり、私もその適用を受け、早期退職することとなりました。

—何歳の時だったのでしょうか？

54歳です。

—なぜ、早期退職プログラムの適用を受けられたのですか。

外資系IT企業の技術者ではよくあるようですが、特に管理職では当時「定年60歳」まで勤め上げる人はむしろ少なかったと思います。私自身も会社への貢献度と今後の見通しを考慮すると、54歳は早期退職プログラムの適用を受ける適切なタイミングだな

と考えました。

—早期退職後は、どうされましたか。

派遣会社に登録し、パソコンのサポート業務などに携わっていました。

—その後、どういう理由から、コンビニで働くことになったのでしょうか。

還暦を迎える頃から、フルタイム勤務だと体がきついなど感じるようになりました。糖尿病をわずらっていましたし、無理して働けないという事情もありました。

その一方で、健康のために70歳を過ぎても働き続けたいという思いも持っていました。コンビニの仕事は適度に頭と体を使うけれども、それほどハードではありません。店舗も全国津々浦々にあるので、働く場所はどこにでもあります。私は独身ですから、給料は年金と併せて食べていけるくらいあれば十分です。1日3〜4時間、週3〜4日のペースで働けることを考えると、コンビニが最適でした。

—それで、どうされたのでしょうか？

その頃、私が住む東京都多摩地域でシニア向けの合同就職説明会が開催されました。行ってみると、セブン・イレブンのブースがあって、シニアのスタッフ採用に意欲的な地域の加盟店が180店ほどあるという話を聞きました。そこで自宅から近い店舗を紹介してもらって、面接を受けました。

—それ以外の選択肢はなかったのですか。

シニアに人気のあるマンション管理人や清

システム開発に携わっていただけあって、
レジ操作はお手のもの



普段はレジ回りの仕事を中心だが、
空いた時間は商品整理も行う



「接客ではフレンドリーさを心がけています」という小林さん

掃の仕事も以前から考えていましたし、合同就職説明会ではそれらの会社の面接も受けました。ですが、電車通勤になることから、仕事にいま一つ魅力を感じなかったことから、結局セブン・イレブンに決めました。

満員電車に乗るのは避けたかったですし、通勤時間つてもつたないじゃないですか。セブン・イレブンの店舗は自宅から自転車で5分の距離だし、ちょうどよかったです。

——その後、採用されて働かれていますね。
すね。とは言っても、コンビニの仕事は多岐にわたりますし、60歳を過ぎてから仕事を覚えるのは大変じゃありませんでしたか。

むしろ私にとっては、仕事が複雑そうなところも魅力の一つでした。認知症予防にもなりますし、何より単純すぎると自分自身が飽きてしまいそうな気がしましたから。

コンビニの仕事はレジ打ちだけでなく、宅配便の受付や各種支払い伝票の処理、商品の検品、品出しなどいろいろありますが、慣れてしまえばさほど難しくはありません。レジ打ちも基本はバーコードのスキキャンです。それにスタッフは2人1組でシフトに入り、作業を分担しますから、協力し合えます。

——小林さんは、現在のどのくらいのペースで働かれていますか。

朝6時から9時までの3時間、週4日のペースで働いていますが、1日のうちで最もレジが込む時間帯なんです。レジに列ができるほど忙しい時は、スポーツをやっている

ような感覚になります。店舗の隣に工場があったり、幹線道路沿いだったりするので、出勤前に食べ物や飲み物などを買っていかれるお客さまが多いんですよ。

——接客は大変じゃありませんか。
以前携わっていたシステム開発は、お客さまとお話してご要望を形にする仕事でしたし、基本は同じだと思います。

——でも、コンビニの場合、いろいろなお客さまがいらつしゃいますよね。

コンビニでは、常連のお客さまがたくさんいらつしゃいます。そんなお客さまたちと毎日のように接していると、互いに親しみがわいてくることもあります。あるお客さまは、以前はいつも無愛想だったんですが、最近笑ってくださるようになりました。そういった人の変化というのも、コンビニの仕事のおもしろさだと感じています。

——スタッフの中で小林さんは最年長ですか。

72歳の方がいらつしゃるので、私は上から2番目なんです。とはいっても、若いスタッフが多い中で、シニアのスタッフはまだ珍しい存在です。研修期間中はネームプレートに「実習生」と入っていて、それを見たシニアのお客さまから、「がんばってください！」と声を掛けていただいたこともあります。62歳からの新しいスタートですが、お客さまとのコミュニケーションを楽しみながら、この仕事をできるだけ長く続けていきたいと思っています。

——末永いご活躍をお祈りしています。